

【参考資料】科学作品の充実に向けて

■次の視点で作品を見直してみましよう。

	動機
1	疑問や自然に対する感動が動機となっており、その動機を分かりやすく書いている。

	目的
1	研究の目的が焦点化されており、研究の見通しが明確になっているとともに、それぞれの研究過程における観察や実験などを、筋道を追って位置付けている。

	過程
1	探究活動が予想に基づき、目的に合った計画（条件統一・対照実験など）を立てて行われている。
2	綿密な観察、実験を行い、一般化するために必要なデータを集めている。
3	得られたデータは文章記録の他に表やグラフなどを用い、表し方を工夫して、適切な方法で処理している。
4	観察、実験に誤りはないか、根拠の不明なところはないか、より効果的な方法はないかなどと振り返っている。
5	得られた結果から結論を導いている（結論に矛盾や飛躍がない）。
6	仮説が正しいかどうかを検証するために別の観察、実験を行って情報を収集したり、観察、実験が予想通りの結果にならないときには計画を立て直して取り組んだりするなど、粘り強く取り組んでいる。

	まとめ
1	研究の目的に対して、何が、どのように明らかになったのか、筋道を立ててまとめている。
2	どこに未解決の問題点が残されているかについても明らかにし、次の研究への新しい芽をもっている。

科学作品に取り組んでいるときや、作品完成後の見直しの際にこの資料を活用してください。

